

**2010年3月期第2四半期
決算説明資料
(2009年4月～9月)**

東洋合成工業株式会社

■ 目次

1. 2010年3月期 第2四半期決算概要 P 3～
2. 今後の展望 P16～

1 . 2010年3月期 第2四半期決算概要

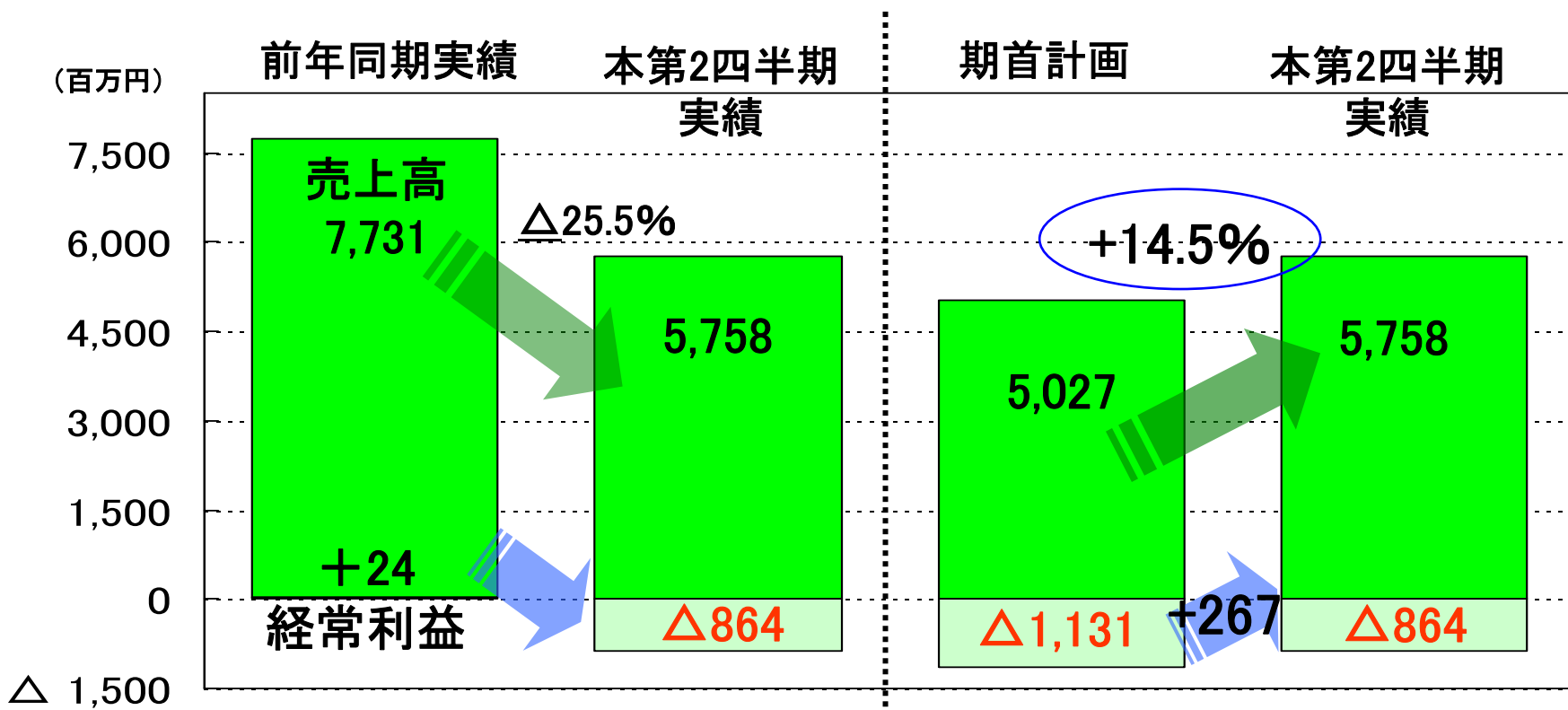
2010年3月期第2四半期決算のポイント

売上高は前年比25.5%減に対し、計画比は+14.5%増

-液晶・半導体用途向け感光性材料の需要回復の影響による。

経常利益は前年比で大幅マイナス。計画比では2.5億円強の改善

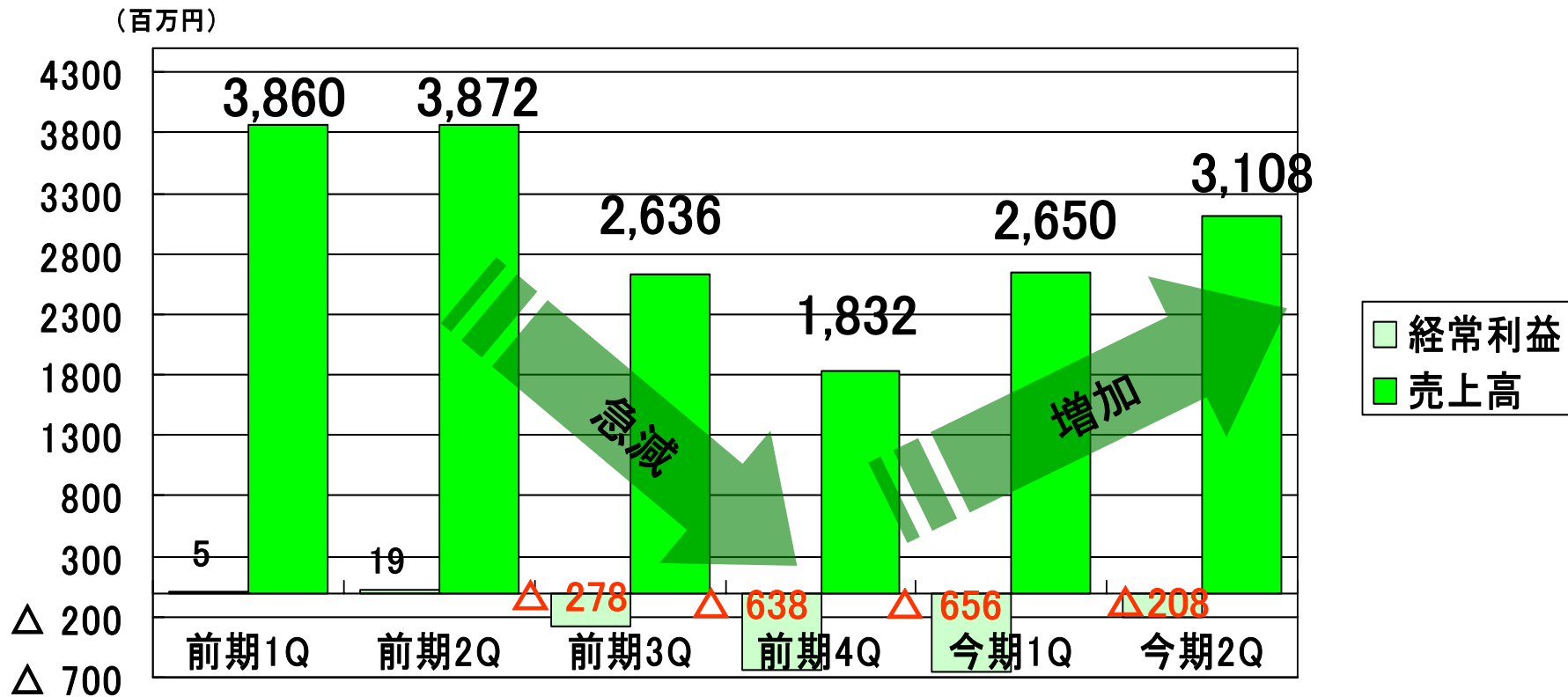
-前期第4四半期をボトムに、稼働率の向上の影響や固定費を中心としたコスト削減による。



2009年8月12日に「平成21年3月期連結業績予想の修正」を発表致しましたが、本決算資料では、修正前の計画でご説明させていただきます。

■ 全社 売上・経常利益 四半期別推移

売上・・・前期第4四半期をボトムに感光材事業中心に急回復。
 利益・・・「工場の稼働率向上」および「固定費を中心としたコスト削減」の結果、原価の改善が進む。



2010年3月期第2四半期 損益計算書

- ①売上 …前期4Qをボトムに回復傾向にあるものの、前期比大幅減。粗利益は稼働率向上により2Q単独でプラス転換。
 ②販売管理費 …固定費を中心としたコスト削減により12.7%減。
 ③営業外費用 …休止固定資産減価償却費、為替差損による影響により増加。
 ④特別損失 …固定資産除却損を計上。

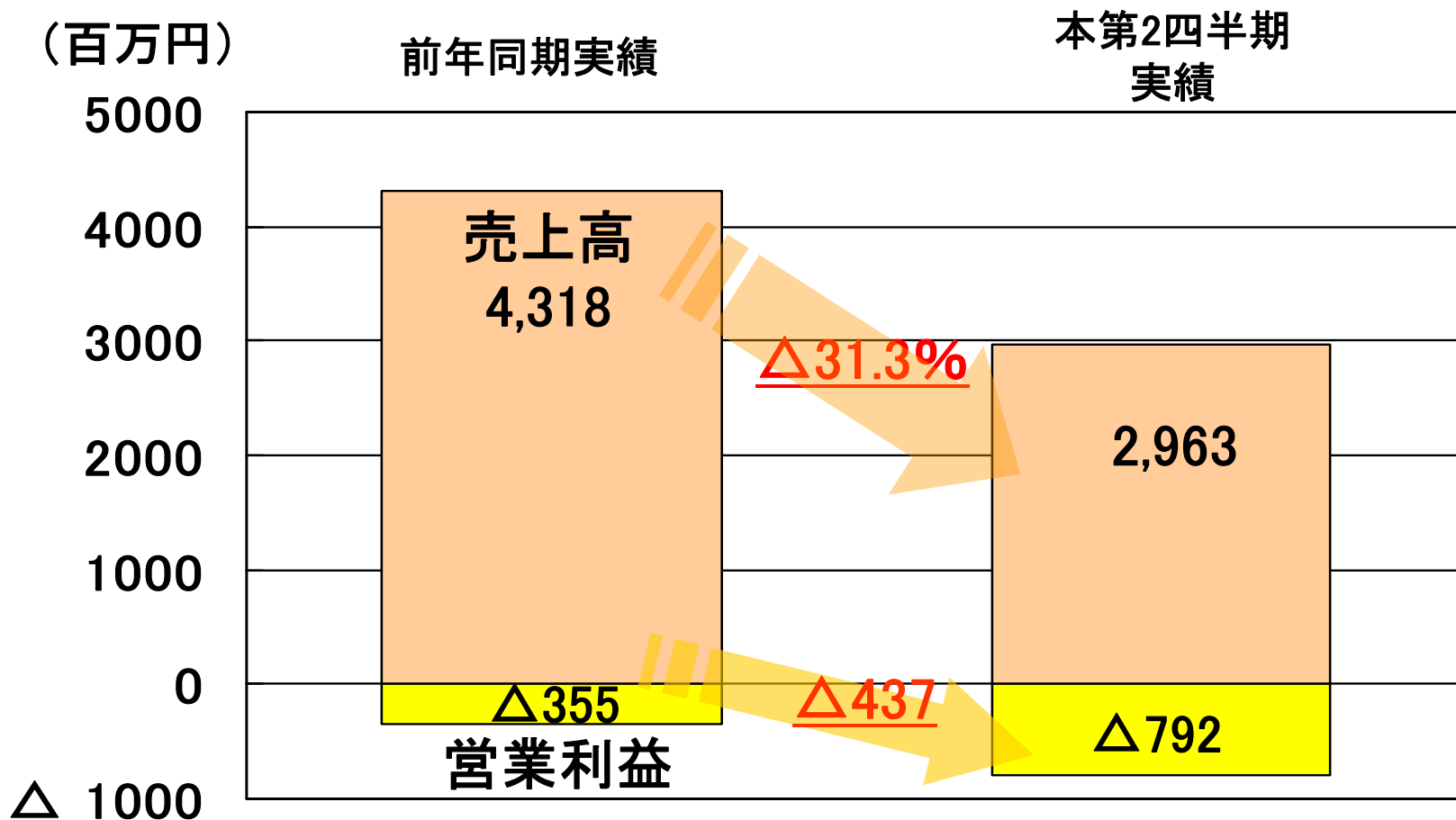
科 目 (百万円)	2009年3月期 第2四半期累計	2010年3月期 第2四半期連結累計	対前年比	
			増減額	増減率(%)
売上高	7,731	① 5,758	△1,973	△25.5
売上原価	6,577	5,534	△1,043	△15.8
売上総利益	1,153	224	△929	△80.5
販売管理費	1,085	② 946	△139	△12.7
営業利益	68	△722	△790	-
営業外収益	93	78	△14	△15.5
営業外費用	137	③ 220	+83	+61.0
経常利益	24	△864	△889	-
特別利益	27	-	△27	△100
特別損失	32	④ 60	+27	+84.4
税引前四半期純利益	19	△925	△944	-
法人税等	5	2	△2	△53.1
純利益	14	△927	△941	-

2010年3月期より前期まで非連結子会社であった㈱トランスパレント社を重要性の観点から今期より連結の範囲に含めております。

感光性材料事業 売上高・営業利益

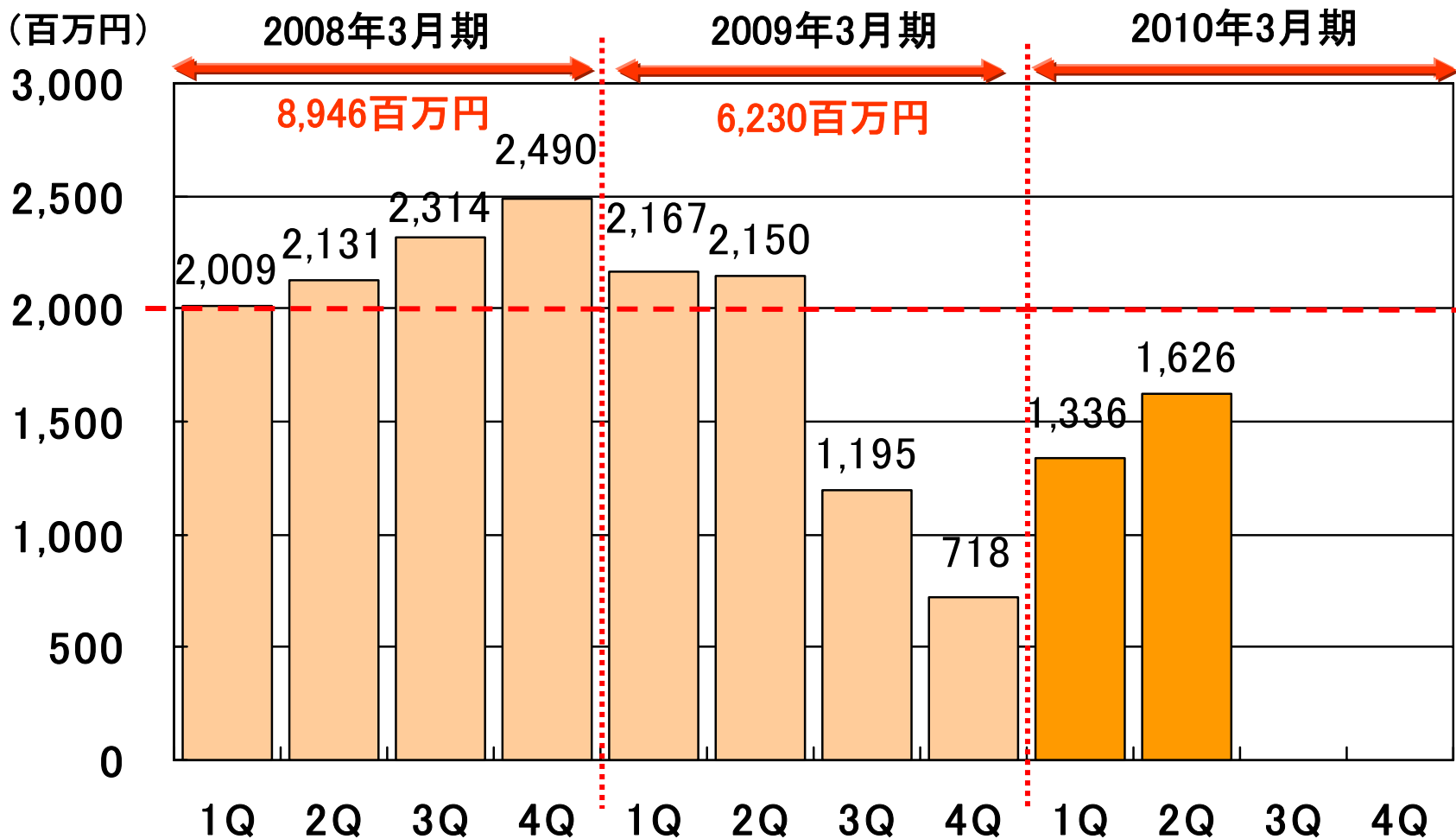
売上高は、前年比31.3%減少。営業利益は、前年比437百万円の減少。

- 売上高は、前期第4四半期を底に本第1四半期以降、回復が続く。
- 千葉工場の稼働率は、液晶・半導体市況の回復により向上し、粗利ベースで大幅に改善。



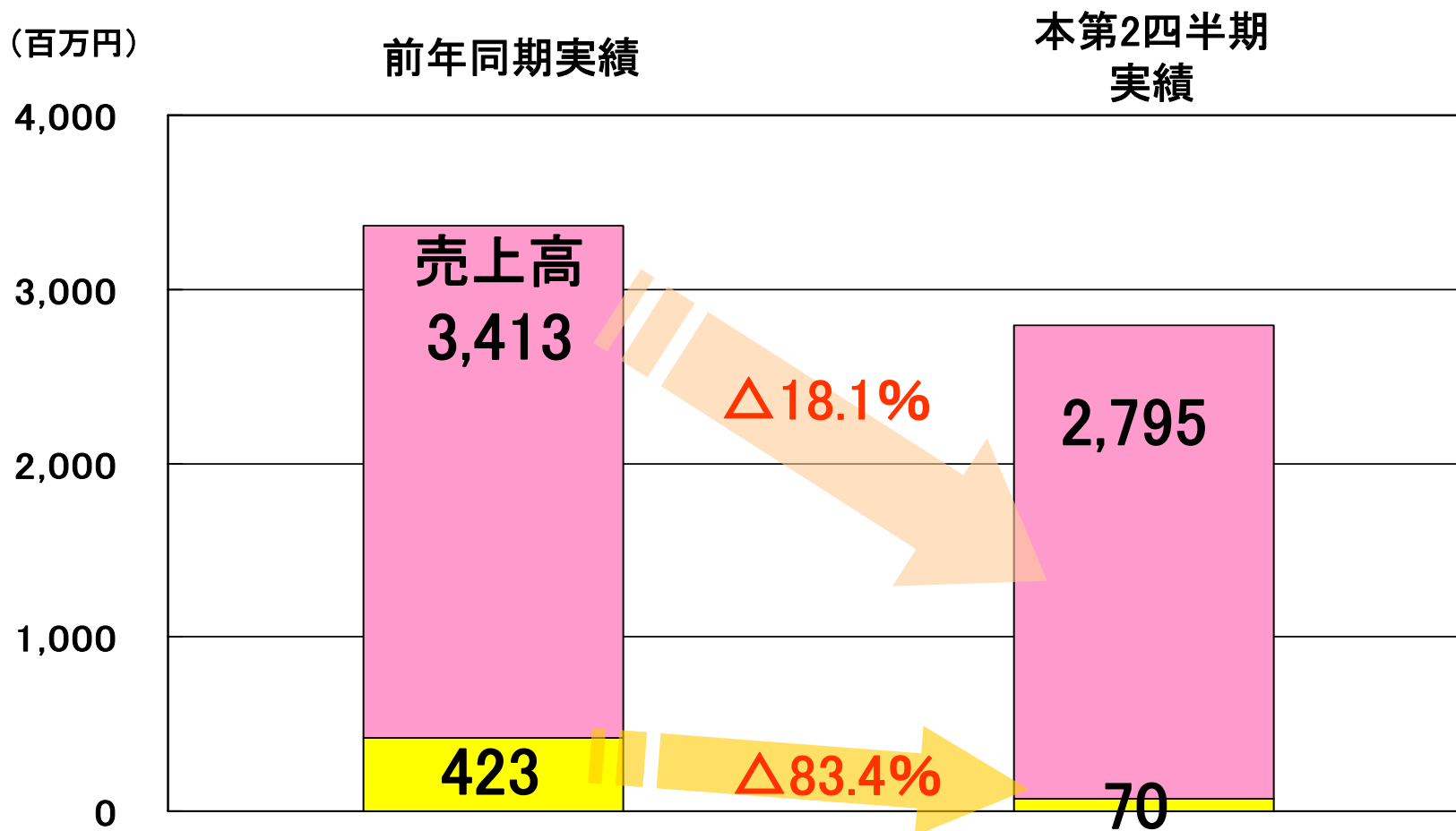
■感光性材料事業 売上高 四半期別推移

・需要は、液晶用途に加え、半導体用途も回復へ。



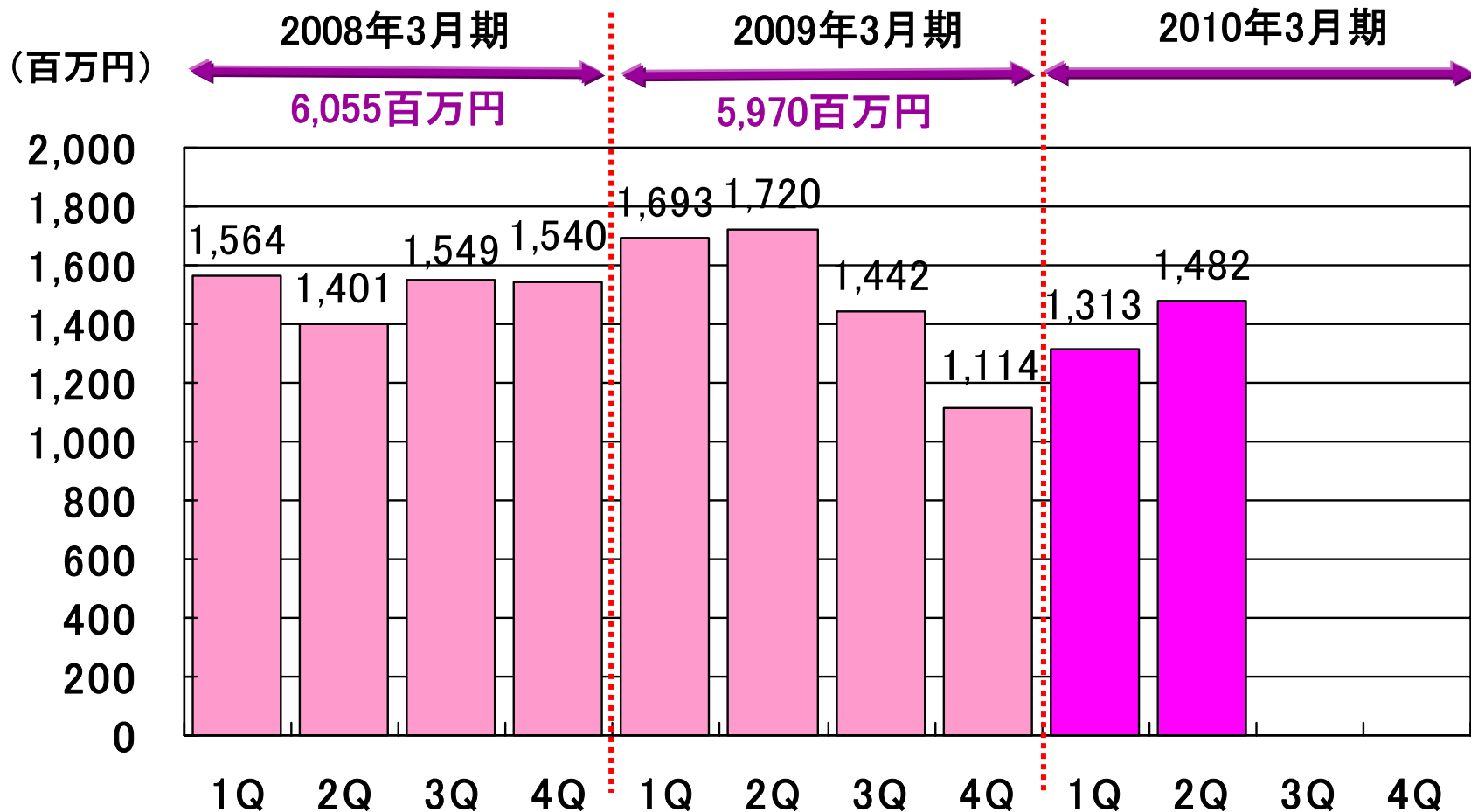
■ 化成品事業 売上高・営業利益

- ・ 売上高は前年比18.1%減少。営業利益は前年比83.4%減少。
- ・ 香料・グリーンケミカル部門は、前第4四半期での生産調整の影響大だが、本第2四半期より回復傾向。
- ・ ロジスティック部門は引き続き高稼働率を維持し、好調。



■ 化成品事業 売上高 四半期別推移

- グリーンケミカル部門 ……汎用溶剤は回復待ちながら、電子材料向け溶剤需要は回復基調。
- 香料材料部門 ……BRICs向け需要の拡大に伴い、海外向け受注は回復。
- ロジスティック部門 ……不況下でも高稼働を維持。



■ 2010年3月期第2四半期 貸借対照表

- ①流動資産：在庫の削減により運転資金を圧縮。 ②固定資産：設備投資の削減影響
 ③借入金：第1四半期をピークに減少傾向。手元資金を差し引いた借入金は前期末水準へ。

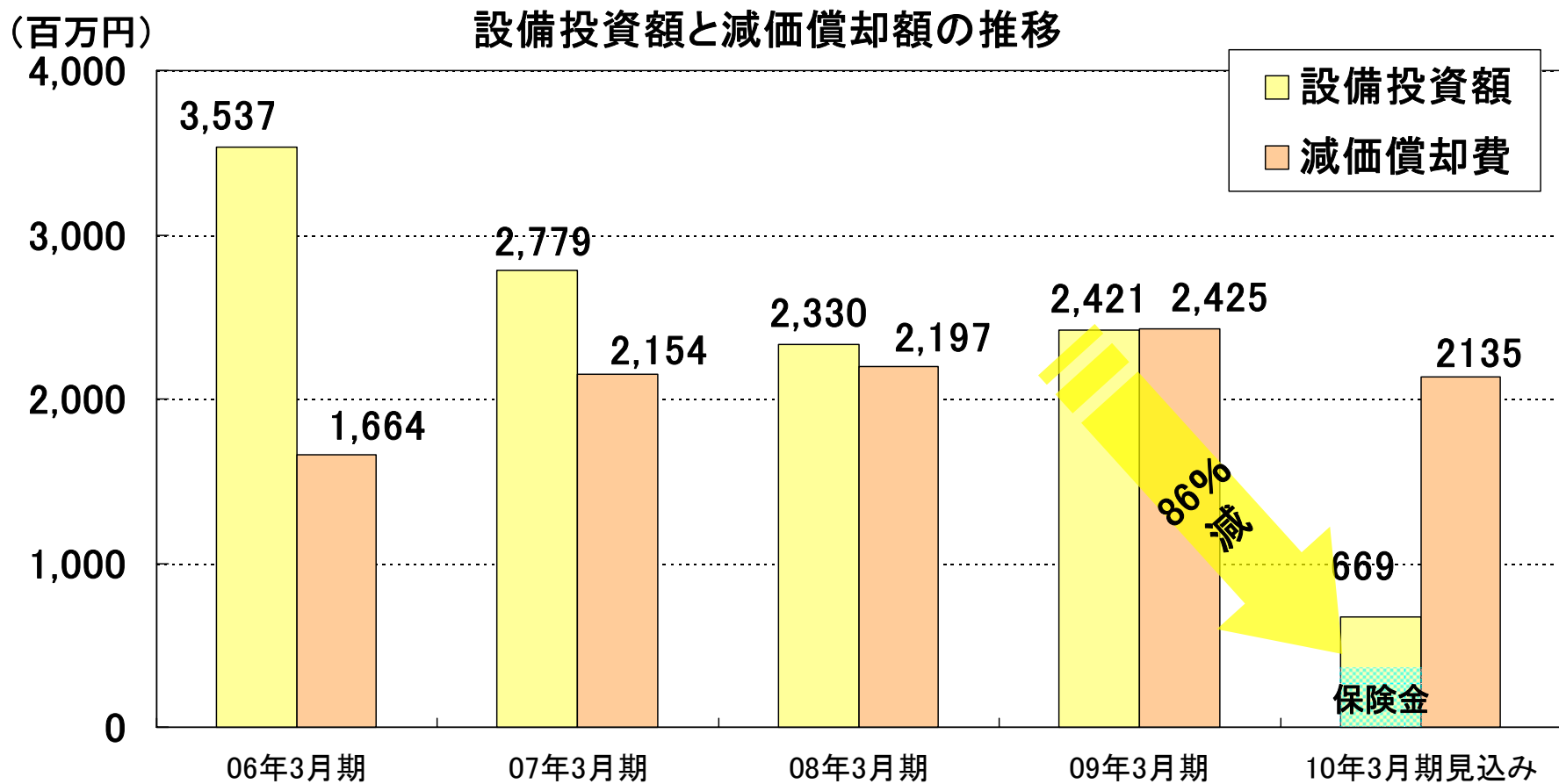
科 目 (百万円)	2009年3月期 期末	2010年3月期 第2四半期連結累計	対前年比	
			増減額	増減率(%)
流動資産	8,579	8,324	△255	△2.9
現金預金	925	1,398	+473	+51.1
売上債権	1,254	2,235	+981	+78.2
棚卸資産	5,760	4,486	① △1,274	△22.1
その他	639	203	△436	△68.2
固定資産	16,981	16,230	△751	△4.4
有形固定資産	15,615	15,048	② { △567	△3.6
無形固定資産	688	652	{ △36	△5.2
投資その他の資産	678	529	△149	△21.9
資産合計	25,561	24,555	△1,006	△3.9
流動負債	10,360	11,064	+704	6.8
買掛債務	1,248	1,369	+121	+9.7
短期借入金	7,609	8,626	+1,017	+13.3
その他	1,502	1,068	△434	△28.8
固定負債	7,969	7,178	△791	△9.9
長期借入金	6,245	5,513	△732	△11.7
その他	1,723	1,665	△58	△3.3
負債合計	18,330	18,242	△88	△0.4
純資産合計	7,231	6,312	△919	△12.7
負債純資産合計	25,561	24,555	△1,006	△3.9

借入金 合計	13,855	14,139	③ 284	2.0
---------------	--------	--------	-------	-----

2010年3月期より前期まで非連結子会社であった㈱トランスハレント社を重要性の観点から今期より連結の範囲に含めております。

■ 設備投資と減価償却費の実績・見込み

- ・ 運転資金の確保・固定費削減の為、設備投資を7億円弱へ抑制
 (保険金でカバーできる復旧投資を除くと、真水での投資額は3億円程度)
- ・ 上記の結果、減価償却費は、前期比で3億円弱の減少を見込む。



2010年3月期第2四半期 キャッシュフロー計算書

- 営業活動によるCFは減価償却費・在庫の削減効果で創出
- フリー・キャッシュフローはプラスを維持

(百万円)

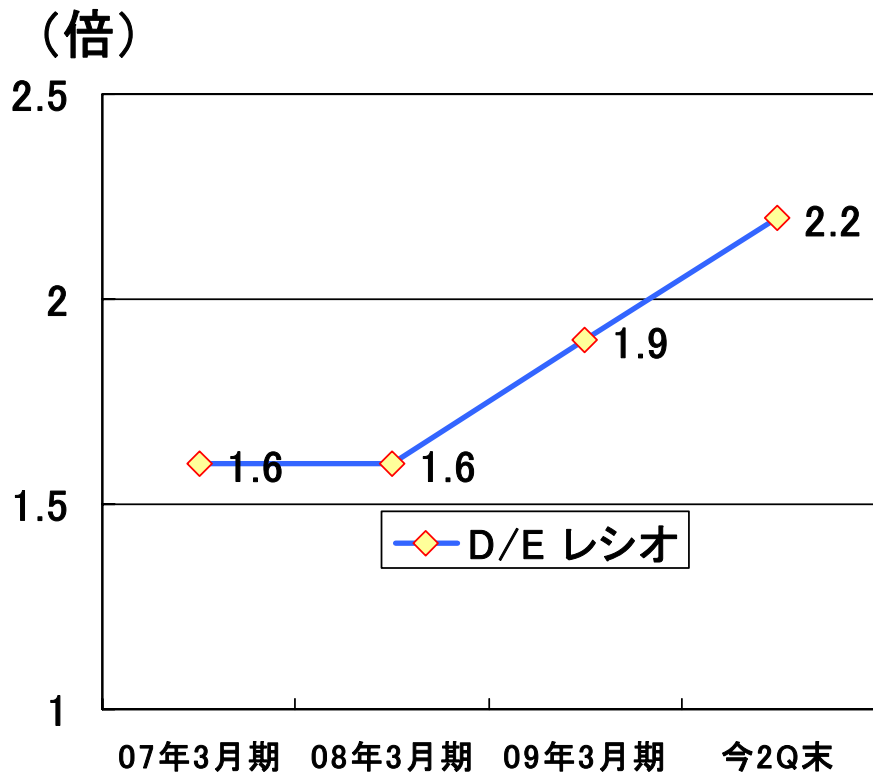
科 目	2009年3月期 第2四半期累計	2010年3月期 第2四半期連結累計
税金等調整前四半期純利益(損失)	19	△925
減価償却費	1,091	1,098
売上債権の増減額	△418	△979
たな卸資産の増減額	△208	1,275
仕入債務の増減額	404	119
その他	605	524
営業活動によるCF	1,493	1,112
投資活動によるCF	△1,164	△1,018
フリー・キャッシュフロー	328	93
財務活動によるCF	△384	244
現金及び現金同等物の増減	△55	338
現金及び現金同等物の四半期末残高	938	878

火災保険金
等を含む

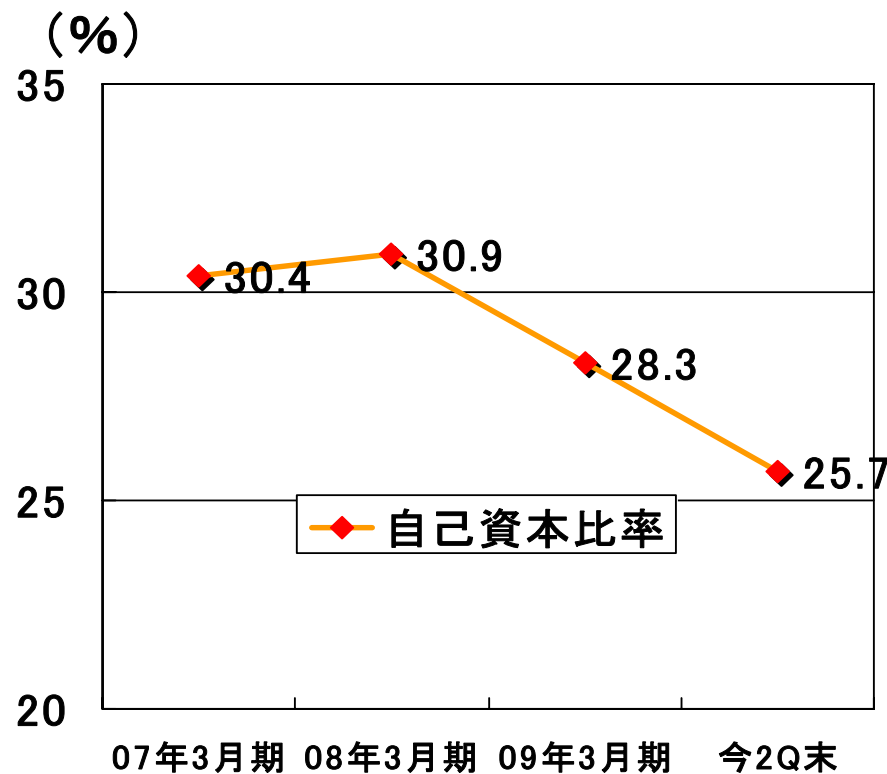
2010年3月期より前期まで非連結子会社であった(株)トランスパレント社を重要性の観点から今期より連結の範囲に含めております。

■ 「D/Eレシオ」・「自己資本比率」の推移

- ・前期及び今期の損失により、財務指標は悪化傾向。
- ・借入金の削減、および早期の黒字化を目指す。



D/E(デッド・エクイティ)レシオ = 借入金 / 純資産



自己資本比率 = 純資産 / 総資産

■ 2010年3月期 通期見通し

・前回第1四半期決算時 発表ベースを据え置き。

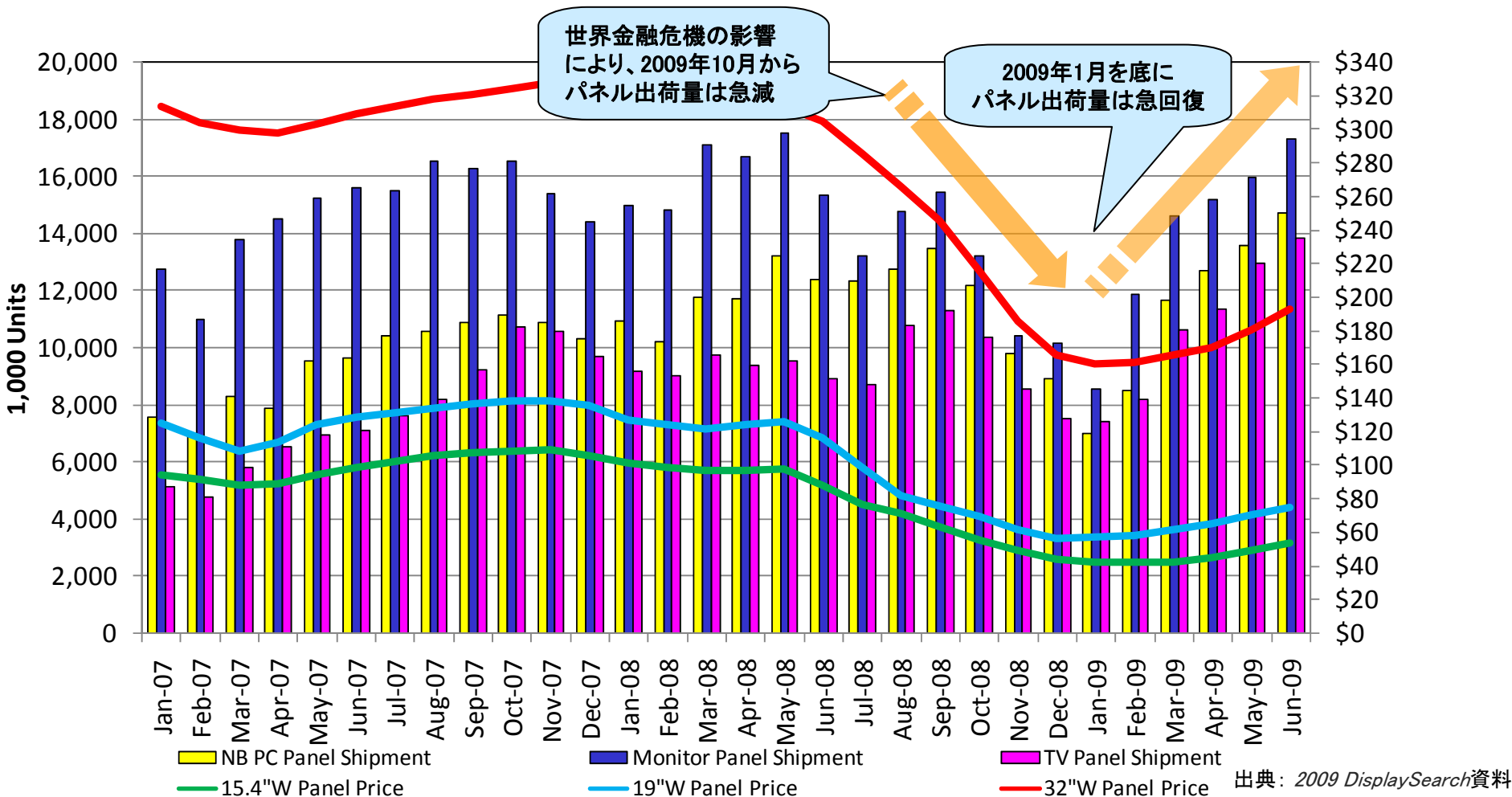
科目	期首計画値	8/12修正値
売上高	11,600	11,800
営業利益	△1,600	△1,320
経常利益	△1,800	△1,520
当期純利益	△1,900	△1,620

上期	下期
第2四半期連結 累計実績	下期見通し
5,758	6,042
△722	△598
△864	△656
△927	△693

2 . 今後の展望

LCDパネル市場

- ・ パネル出荷量は、世界金融危機により2008年10月から急減。2009年1月を底に急回復。
- ・ パネル過剰在庫は、2008年10月から2009年2月にかけて、在庫調整により解消。
- ・ 当社生産量は、2009年3月から急回復。



LCD TV市場 (世界LCD TV需要の市場予測)

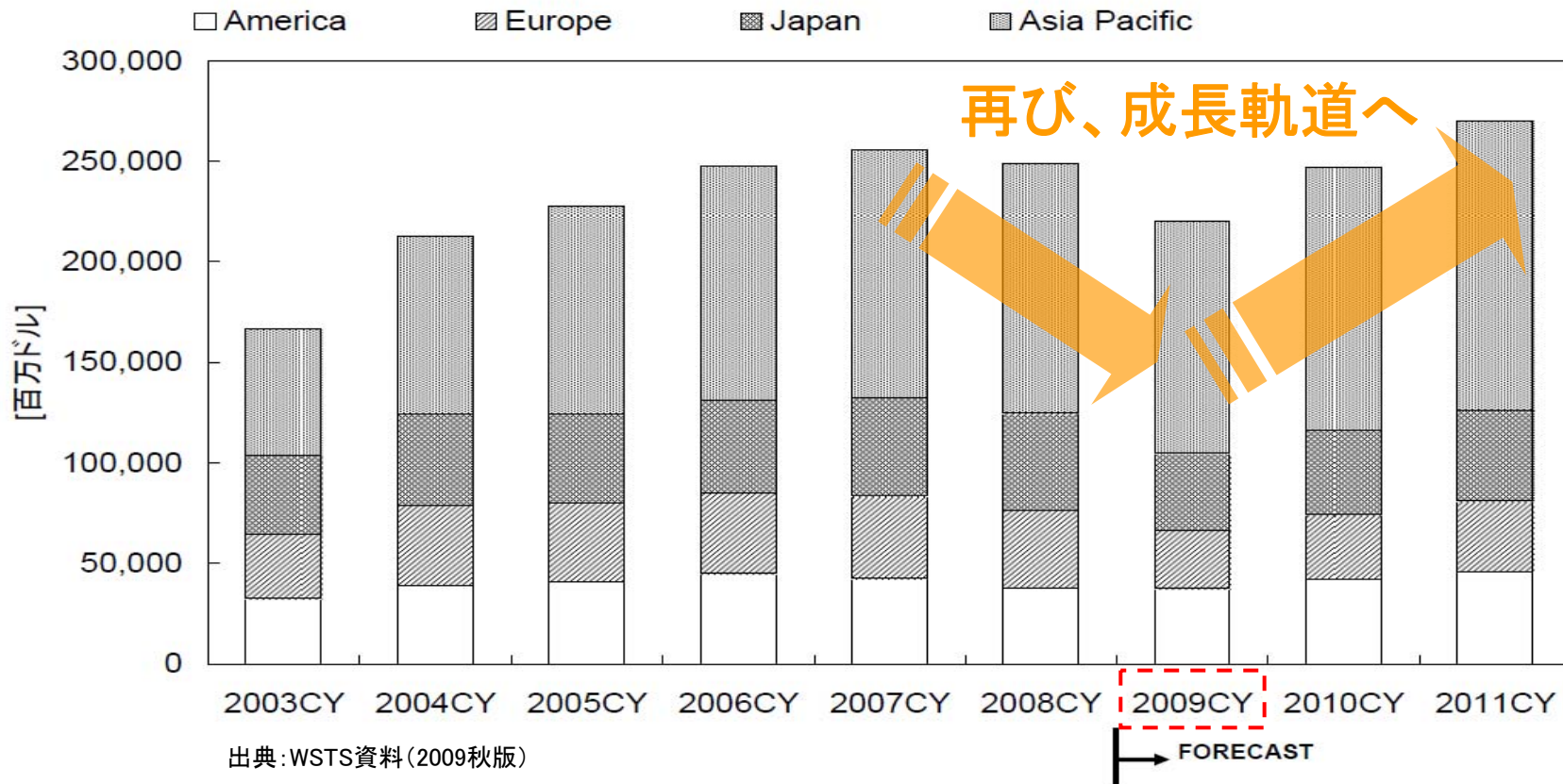
- ・ 2009年、特に中国政府の内需刺激策により需要が急拡大。先進国普及率は、飽和。
- ・ 2010年以降、中国および新興国(アジア・中南米、等)のLCDTV普及率の拡大は継続。

	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年～
日本	 エコポイント		 アナログ停波		
北米	 アナログ停波				
従来家電販売店					
ディスカウント店					
西欧					
東欧					
中国					
都市部					
農村部		LCD TVの普及率が拡大			
アジア、中南米、 中近東		 ブラジル		 インド	

半導体市場

- 世界金融危機の影響を受け、2008年の世界半導体市場の成長率は、前年比△2.8%へ落ち込み。
- 2009年は、1Qを底に回復傾向にあるものの、前年比△11.5%と2年連続のマイナス成長を見込む。
- しかし、2010年は+12.2%と成長軌道へ回帰。
- 2011年も+9.3%と成長が継続し、過去最高額を達成した2007年の市場規模を超える見込み。

世界地域別市場予測

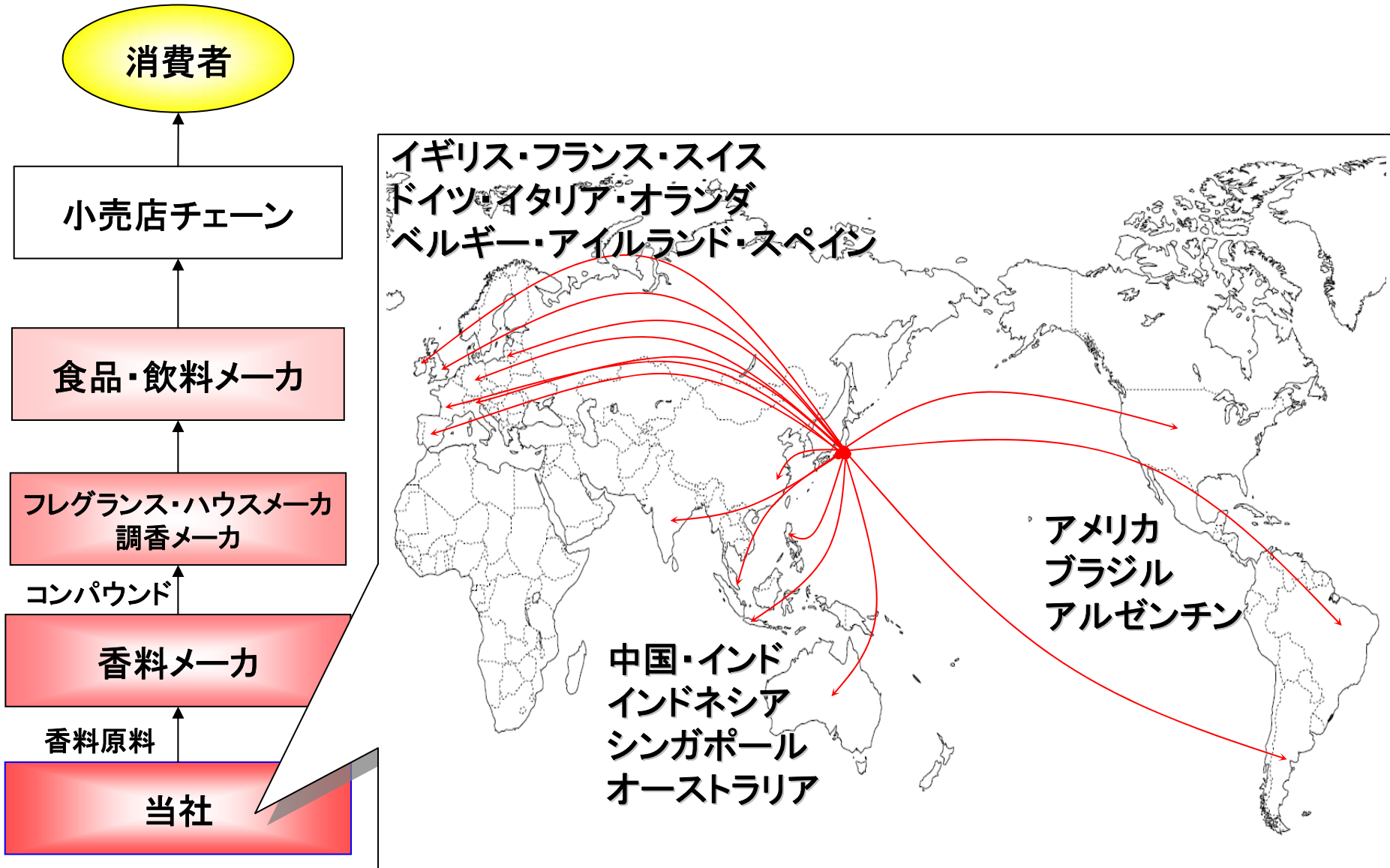


感光性材料事業 展望

- ・ 半導体市場は着実に回復
- ・ レジスト市場は化学増幅系 (KrF・ArF・ArF液浸等) を中心に市場は拡大。
- ・ 将来へ向け製品開発体制を強化

	液晶用		半導体用					
光源	g線	i線	g線	i線	KrF	ArF	ArF液浸	EUV EB
ノード	～2000nm	～1000nm	～150nm	～90nm	～65nm	～45nm	～32nm	～16nm
アプリ	TFT LCD パネル	ハイスペックLCDTV 層間絶縁膜	携帯電話 PCB	ipod	NANDメモリ MPU GBメモリ	NANDメモリ 2コア GBメモリ Ipod nano	4コア GBメモリ TBメモリ	複数コア フォトマスク
市場	季節要因はあるが、 今後も成長	LTPS(PDA,カーナビ、 携帯電話)の拡大	緩やかに縮小	緩やかに拡大 延命化	拡大 延命化	拡大	・商業化 拡大	プロトタイプ露光機 販売中 露光機・材料開発中
対策	増産・拡販		生産プロセスの最適化			商業化		研究
	大型テレビ用感光 材の開発 利益管理体制強化	高感度品の開発 一部商業化	・生産性向上	生産性向上 高解像度/高感度 化	高感度化 ポリマ設計	モノマー ポリマー 光酸発生材設計	光酸発生材設計 工程対応	初期化合物開発、 特許9件出願済み 海外特許2件出願 済 高感度・低LER材料 開発中

香料材料部門 当社から世界へ



■ 香料材料部門 展望

- ・ グローバルな大手香料メーカーに主力製品の販売を拡大。
- ・ 新たな需要に対応するため、生産能力を増強。

市場

- ・ 世界経済の回復に伴い、香料材料需要は好転
- ・ ニーズは、低コスト・高付加価値製品

国内

国内

- ・ 少子高齢化の進行
- ・ 香料市場は横ばい

対策

- ・ 特定分野の強化
- ・ 協業体制強化

海外

海外

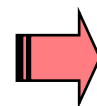
- ・ BRICs市場拡大

対策

- ・ グローバルへの拡販強化

対策

- ・ REACH対応加速
- ・ 新製品開発
- ・ 生産キャパシティ確保



市場開拓
価格競争力強化

■ グリーンケミカル部門 展望

・ 電子材料業界向け溶剤販売を強化

市場

印刷・粘着業界

印刷・粘着業界

・回復途上

対策

・溶剤回収によりお客様コストを低減

電子材料業界

デジタル機器業界

・電材市場は回復傾向
 ・デフレ化傾向よりコスト圧縮ニーズ
 ・不純物含有量の低減要請
 ・プロセス溶剤の変化

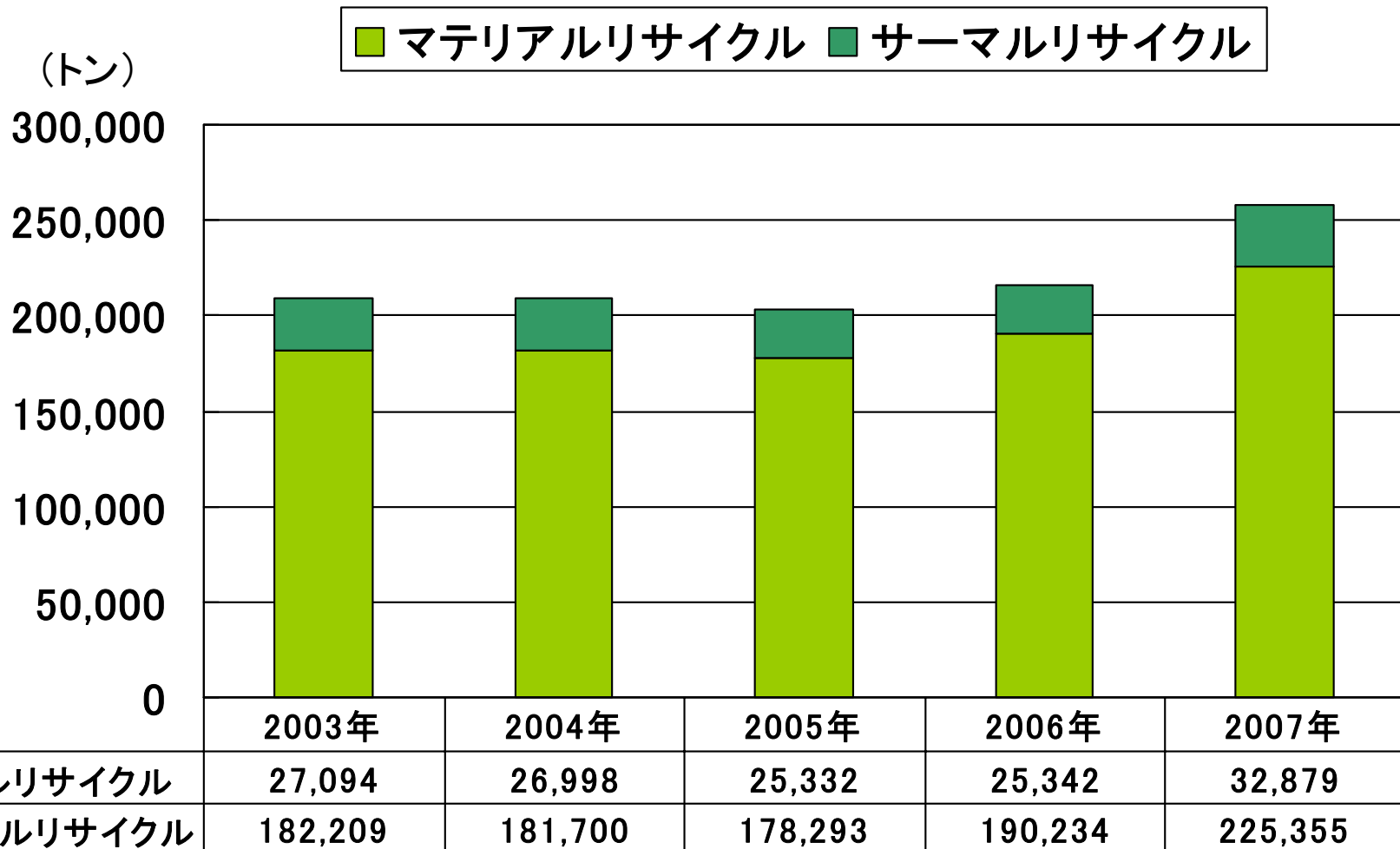
対策

・感光材/エネルギーとの協業強化
 ・電子材料向け自社製品の販売強化

強み

- ・蒸留50年の信頼、立地、技術、コストパフォーマンス
- ・ロジスティックとの協業

■ (参考) 溶剤リサイクル市場の概要



■ ロジスティック部門 展望

- ・ 高付加価値サービスにより売上拡大

市場

- ・ 不況に伴い国内需要の回復が遅れており、溶剤荷動きは鈍い。
- ・ 中国製品の流入による溶剤保管ニーズの拡大

対策

- ・ 短期的契約でなく、長期契約を志向
- ・ タンク契約率はほぼ100%を維持
- ・ グリーンケミカル部門(回収溶剤分野)との協業強化

■ 新規事業（エネルギー事業） 展望

- ・ 設備投資需要の減退により、需要回復待ち
- ・ ニーズに応じたきめ細やかな研究開発

電解液・イオン液体

- ・ 継続的営業活動により、電解液・イオン液体(IL)のお客さま認証の取得
- ・ 電解液は徐々に商業化フェーズに移行したが、金融危機により需要急減
- ・ イオン液体の用途展開が徐々に拡大し、顧客への対応の迅速化が必要

市場

電解液

キャパシタ

- ・ 協業体制から商業化へ
- ・ グリーン需要が後押し

対策

- ・ 量産品の販売開始
- ・ 製品ラインナップの充実
- ・ キャパシタとしての製品の特性・優位性を確認

イオン液体用途開発

機能化学品として

- (電解質、潤滑剤、添加剤、導電性材料、プロセス化学品)
- ・ マル/有機不純物フリーの安全性/高純度/高品質の研究が拡大

対策

- ・ 量産対応が可能
- ・ 品質・性能・コスト優位性を訴求
- ・ 素材メーカーとの協業展開

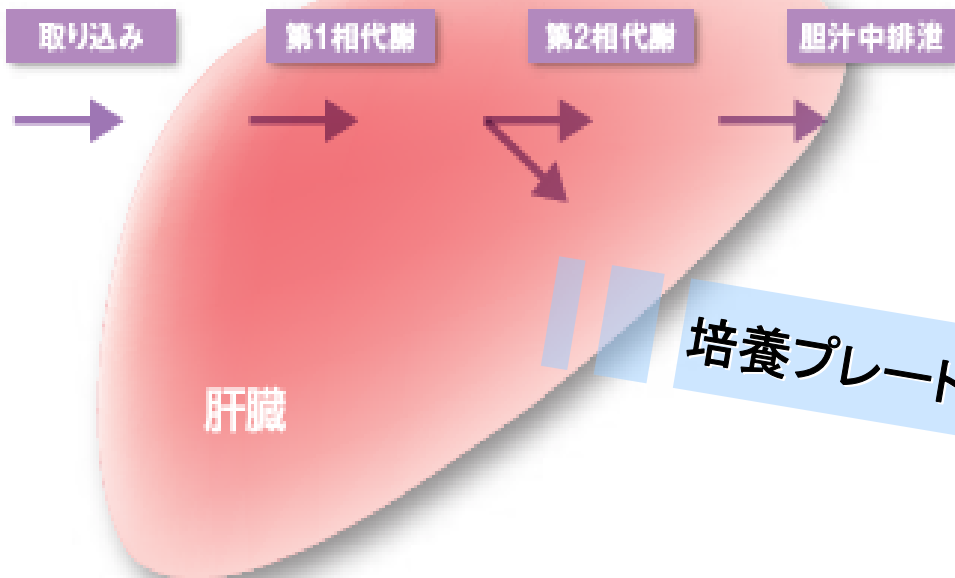
対策

トランスパレント社 展望

- ・ 次世代型ヒト肝細胞の3D培養キット「Cell-able」(セルエイブル) のマーケティングを日本・米国において実施中。
- ・ ヒトの肝臓機能に対する評価をin vitro(=人工的に作られた環境)で可能とし、新薬開発時の効率化とコスト削減に寄与。
- ・ (補足) 当年度(2010年3月期)より、トランスパレント社を連結決算へ組み入れ。

肝臓機能のin vitroでの再現

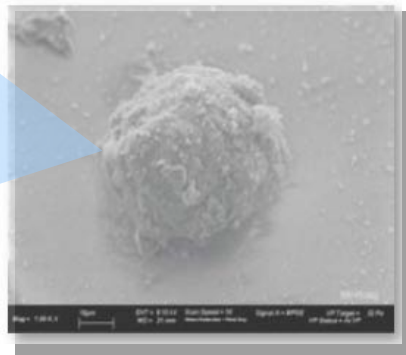
世界初となるトータルな肝機能評価を可能に



肝細胞培養キット



培養プレート上の肝臓細胞



■ 今後の成長に向けて

- ・ 海外マーケット強化
 - ⇒ 今後拡大が期待される、海外への拡販施策を強化
 - ⇒ 海外ビジネスを担う人材の育成
 - ⇒ 海外ビジネスのスキル獲得

- ・ 営業と研究開発体制の強化
 - ⇒ 営業部門と研究部門の連携を強化

- ・ コスト削減の継続・強化
 - ⇒ 最適な在庫水準の維持と安定供給
 - ⇒ 「コスト構造の見える化」



東洋合成工業

(ご注意)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクによりこの業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。